

大人のチカラ

16

～子どもたちの未来のために～

地域で子どもを育てる①

保護者と地域の距離感が大事

子どもを育てることは保護者や学校だけの役目だと思ってしまう。将来を担う子どもたちには、社会全体が関心をもつことが必要。今、「地域の教育力」が求められています。そのためには、常日頃から積極的な関わりが重要です。

次の担い手育成に社会全体で関わる

香川大学生涯学習教育研究センター長・清國祐二教授は、「子どもを育てる」とは、次の社会の担い手を

育てること。教育は社会みんなが当事者であり、積極的に子どもとの育成に関わろうとする姿勢が大切」と訴えます。

団など、子どもの育成に組織的に取り組んでいる活動は昔からありました。近年では、保護者の意識によって子どもの参加や体験の濃淡が分かれているようです。

自由に遊びを考え子どもが遊びを作る

例えば高松市立新番小学校区では、地域の大人と作ったプランターを小学校周辺に配し、一緒に世話を

子ども自身が遊びを作る方が育つといいます。他にも、老人会などが中心の「登下校見守り隊」など、いろいろな活動が行われています。清國教授は保護者に対し、「個人、自治体など、それぞれができることがあります。継続には困難もありますが、保護者の感謝の一言がそれを支えるのです」とメッセージを送ります。



また、活動に必要な不可欠な世話役はやりたがらない人が多いのが現状。「お世話を経験した多くの人は口をそろえて『大変だったけどよかった』と言います。実は大人が成長できるよい機会。子どもの成長を願うのであれば、まずは保護者からではないでしょうか。みなさんの後ろ姿はきっと我が子に『誇らしさ』を与えるはずです。まずは保護者から地域に溶け込むこと。そうすれば、子どもも参加しやすくなるでしょう。